

# 富山県聴覚障害者 センターだより

- 協会とセンターのホームページ  
<http://www.tomichokyo.or.jp>
- 手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布してい

## 電話リレーサービスやICT(情報通信技術)の活用と、施設の役割について研修 特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会 2018年度総会・第14回(通算第26回)大会



6月14日(木)～15日(金)、一般社団法人福島県聴覚障害者協会(福島県聴覚障害者情報支援センター運営委員会)が主管し、福島駅近くのコラッセふくしまにて、2018年度総会・大会が開催されました。正会員施設52の内49施設から76人、他に賛助会員加え81名の参加がありました。

総会では、2017年度事業報告として厚生労働省の電話リレーサービス事業への対応、意思疎通支援と情報メディアに関する専門委員会・研修会等の報告がありました。2018年度事業として、情報提供施設におけるICTを活用した聴覚障害者への

情報提供に関する研究事業を行うほか、電話リレーサービス事業を実施する施設を沖縄・熊本・滋賀(京都、大阪と共同実施)・千葉・岡山・長野(富山と共同実施)・札幌(宮城・福島と共同実施)の7施設とすること等が報告されました。

総会後の大会では、厚生労働省自立振興室室長補佐の村山太郎氏、全難聴理事長の新谷友良氏、全日本ろうあ連盟理事長の石野富志三郎氏を迎え、シンポジウムを行いました。村山氏からは、社会的インフラは各省の予算で対応、電話リレーサービスは社会的評価があること、Net119緊急通報システムの普及を図っていること等。新谷氏からはすべての音声情報の文字化を求めており、情報コミュニケーション法が必要。石野氏からは電話リレーサービスの制度化へ法改正等に取り組む事、子どもたちが使えるように情報処理の学習も必要であることなどの発言がありました。進展していくICTの活用において、



聞こえない・聞こえにくい人たちがいることをきちんと位置づけて取り組んでいくとき、制度としての聴覚障害者情報提供施設がまだ脆弱であり、その拡充が不可欠だと思いました。

翌日のブロック会議では、北信越ブロックとして情報交換とブロック研修について協議し、映像担当職員の会議及び、施設運営と派遣コーディネーターの会議について打ち合わせをしました。



来年は、北信越ブロック当番で、長野県聴覚障害者協会(長野県聴覚障がい者情報センター)が主管し、長野市にて開催されることになりました。

### センター利用の実績 5月21日～6月20日

- 来所者合計約513名  
聴障者約194名、健聴者約319名
- コミュニケーション支援 113件
- ライブラリー貸出 0件
- 相談対応12件 ●部屋貸出37件

- ★センター運営募金・募集★  
郵便振替口座;  
00790-0-93002  
名称;富山県聴覚障害者  
センターを支える会

よろしくお願ひします。